

第4回 徳島市文化振興ビジョン策定のための市民会議 会議録

日 時 平成29年2月3日（金） 午後3時半～午後4時半
場 所 市役所13階 第2研修室
出席者 15名（委員9名、事務局ほか）

1 開会

2 議題（1）徳島市文化振興ビジョン（素案）について

事務局から、資料1 第3回文化振興ビジョン策定のための市民会議意見概要について説明

会 長： 資料2 徳島市文化振興ビジョン（素案）検討資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局から、資料2 徳島市文化振興ビジョン（素案）検討資料について説明

会 長： 7ページの「社会包摂」（ソーシャルインクルージョン）について、ここでは「社会包摂」となっているが、「新たなホールの整備に向けての提言書（平成28年11月）」では「社会的包摂」としている。用語は統一するか。

事務局： 確認する。

A 委員： この文化振興ビジョンは、どのくらいの期間を実行年度とすることを目処としているのか。文化振興ビジョンの中にはオリンピックのことなどにも触れられている。現在はオリンピックに向けて様々な動きがあるが、2020年が過ぎてしまうと、たちまち色あせたものになるのではないかと、ということが心配される。

事務局： ビジョンの推進期間は平成29年度からおおむね10年間としている。現在2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、様々な文化プログラムが動き出していると聞いている。その動きをひとつのきっかけとして文化の取組を定着させ、オリンピック終了後も引き続き行っていくという意味合いがある。

会 長： 10ページに「また、東京大会以降もレガシー“遺産”として、文化的発信が継続できる人材の育成などに取り組んでいきます。」という記述がある。2020年で終わりではなく、引き続いていくという姿勢が示されている。

B 委員： 「遺産」という表現は、あたかも過去のものというように気にかかる。文化

は常に更新されていくものだが、「遺産」という表現でよいのかは気になる。常に更新、発展させていく前向きなニュアンスの言葉にしたほうがいいのではないか。

会 長： 「レガシー」という単語は、最近は前向きな意味合いの文章で使われることもあるが、日本語に直訳すると「遺産」という言葉になり、受身的な、若干ネガティブなイメージを持つ。より適切な言葉があれば、例えば「資産」などと言い換えることを検討してはどうか。

13ページ「5 文化振興の環境づくり」の新たなホールについては、1ページ「策定の趣旨」の部分に対応するものである。ここに書かれていることは、徳島市音楽・芸術ホール整備推進有識者会議の趣旨を踏まえたものになっているのか。

事務局： そうである。以前から徳島市の新ホールの整備について、基本的な方針は変わっていない。有識者会議の提言もそれに沿ったものである。

会 長： 提言書からの連続性、整合性が保たれているということである。

16ページ「評価」は文章が書き足されている。文化の場合は、成長度を図るのが難しいが、それを説明した文章になっている。

15ページ「推進体制」については、今後ここに示されている体制を整えていくことを想定しているのか。

事務局： そうである。

B 委員： 文化振興ビジョンを実現させていくための、具体的な活動に関する計画はどのように示されるのか。例えば、上位の計画として文化振興ビジョンがあり、次に基本構想があり、次に基本計画にて詳細な実行計画が示されるなど、具体的な施策と文化振興ビジョンの位置づけは示さないのか。このビジョンを実行に移すための方針がないと、ビジョンを定めただけの一過性のものになってしまう可能性が高い。現実的にどういう具体的な方策を持つかが、後段の評価や実施体制のリアリティを高める上で非常に重要になると思うが、いかがか。

事務局： 具体的な行動計画などは必要になってくると考えている。前回にも委員からどう進めていくのかとご指摘をいただいている。ただし、ビジョンの策定と同時に具体的な行動計画をつくるかどうかは、現在検討中である。

会 長： ビジョンそのものは、1ページに「徳島市まちづくり総合ビジョン」の部門別の計画にあたる。まちづくり総合ビジョンも、これまでの総合計画と同じように、行動計画や実行計画のようなものは作る予定になっているのか。

事務局： 現在作業を行っている。

会 長： そうなると、文化に関しても基本的なところや成果指標が、行動計画で位置づけられることになる。

文化振興に関して、徳島市の最大の問題は新ホールの整備である。もちろん、

文化振興にハードの整備だけが必要なわけではないが、ひとつのプロジェクトとして非常に大きいものである。つい大プロジェクトに注目がいき、もっと細かな文化の振興の部分に対する目配りが後回しになってしまう。そういう意味で、このビジョンは意義のあること、つまりホール整備というプロジェクトだけでなく、全般的な文化振興もあわせて進めていく、それを担保、支援、底上げするという意味がある。

文化行政は、どうしても行政全体の中では、優先度が低い傾向がある。それに対するひとつの「てこ」になるようなビジョンにしてほしい。

C 委員： せっかくこういう取組方針があり、こういった事業例があげられている。皆が作ったビジョンだから、こういうことをしていくと財政や人事当局にきちんと伝えて、それが実現していくという使命を帯びることとなる。

市民にアンケートをとったときも「文化なんて」という意見もあったが、逆に文化が発展すれば経済も発展する、心も潤う、ということ、市の方もアピールする必要があると感じる。

会 長： 「文化は個人の心の世界なので個人に任せればいい」という考え方が世の中には残っている部分がある。

文化の力を広く市民に理解してもらうことは、文化振興ビジョンが実現する大きな基盤になる。最近アニメや漫画の聖地巡りなども話題となっている。人を引きつける幅広い力が文化にあるということは、皆身をもって体験されるようになってきた。そこを戦略的に使っていくことで、行政内部、市民の理解を得ていくということは一つの方法となる。

戦略を色々考えていただきたい。

D 委員： 共通理解しておきたいが、1 ページ「策定の趣旨」の部分で「人材」という表記はあるが、「人材」の誤記ではなく、あえて「人材」と示しているということか。

会 長： 前後の文章からすれば、「人材」という表記でもよいかもしいない。事務局で検討していただきたい。

このビジョンは、今後どのように周知や広報をしていくのか。

事務局： 冊子にして配布、概要版の作成、ホームページでの公表をする。他にも、多くの場所で周知を図りたいと考えている。

A 委員： 新聞にホールについて3案あると掲載されていたが、概ねいつ頃に絞っていく予定か。

事務局： 昨年の12月議会で新たなスケジュールを示している。平成29年度中に建設候補地を選定し、基本構想等の策定に取り掛かると説明させていただいている。

A 委員： では、発表の時期にはこのビジョンが反映された検討が可能ということか。

事務局： その通りである。

会長： 本日の意見を踏まえ、素案の最終確認はどのようにするか。

事務局： 本日のご意見を受けて修正を行った後、委員長の確認をもって承認とさせていただきますが、いかがか。

委員： 異議なし。

E委員： 文化振興ビジョンの公表後、具体的にどう実現していくかという計画はあるのか。

事務局： それぞれの取組方針、事業例という形で示しているが、現在、すでに事業として取り組んでいるものもあれば、新たに始めなければならないものもある。今後、事業計画を立て、取組ができるように検討していく。

E委員： 例えば、2ページに「伝統芸能」が示されているが、実際には、ホールという場所がない現在の環境でも、伝統芸能を実践されている方々がいる。こういった方々の意見をヒアリングし、「公的にこのようなことをしてほしい。」という要望を吸い上げていかないとならないのではないか。

難しい部分だが、県と市が同じ取組をしていても仕方がない。県と市で、活動の棲み分けが必要である。

2 議題（2）その他

会長： パブリックコメントの結果によっては、文化振興ビジョンの内容を修正する可能性がある。再度、皆様のご意見を聞いた方が良いと思われる場合は、改めて市民会議を開催させていただきたい。

3 閉会